

## 6. 履物の映画

鈴木 絵美留

<前号(208号からの続き)>靴に関する映画・ドラマやドキュメンタリーは日本で公開されているものがいくつかあります。見た事がある方も多いのではないのでしょうか。それでもまだ日本未公開のものも多く、いつか日本でも公開してほしいと日々願っています。例えばスニーカーに特化しているドキュメンタリーだけでも、たくさんありますし、各有名ブランドやデザイナーの成り立ちや成功するまでの話を1つの映画としてまとめているものは、それぞれのブランドの創成期からを知る資料としても大変興味深いと思います。

イギリスの靴デザイナー マノロ・ブラニク氏のドキュメンタリー映画「マノロ・ブラニク トカゲに靴を作った少年（原題：Manolo: The boy who made shoes for lizards）」が2017年に公開された時に、この映画公開を記念して“Lagarta”(スペイン語でトカゲの意味)という世界に15足しかない靴が展示販売されました。(日本ではそのうちの1足が販売されました。)



画像は<https://www.facebook.com/manoloblahnikfilm/>より

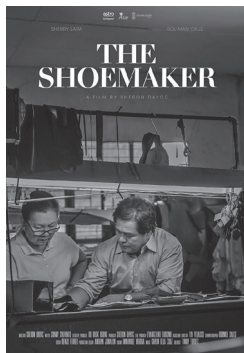
履くのではなく、愛でる靴と呼ぶに相応しい作品ですね。マノロ・ブラニク自身が作り出してきた靴のコレクションたちは普段履く靴としてだけではなく、ひとつのアートとして、世界中の博物館を巡回したことがあります。私もカナダで開催された特別展を拝観しました。この件についてはまた今後じっくりお話ししたいと思います。

実はどうしても見たい、靴にまつわる映画はたくさんあるのですが、これが簡単に見ることができないものも多く大変悔しい思いをしています。世界中の履物に関する映画やドキュメンタリー作品については自分から意図的に検索をしないと見つけられないことが多く、大々的に宣伝されているものが少ないのです。知った時にはすでに公開が終了してたり、常日頃から自分の履物アンテナを張り巡らせて情報収集をしておかないと見逃してしまうことが多々あります。(悔しい限りです)

そのどうしても見たい映画の中に、フィリピンで制作公開された、フィリピンの靴にまつわる映画たちがあります。これらの多くはフィリピン国内のみで短期間公開されていただけで、DVDやオンライン化されていないものばかりです。機会があれば本当に見たいと長年思っていますので、何か情報をお持ちでしたらぜひお知らせいただければと存じます。

かわとはきものの読者の皆様の中には、すでにご存知の方もたくさんいらっしゃると思

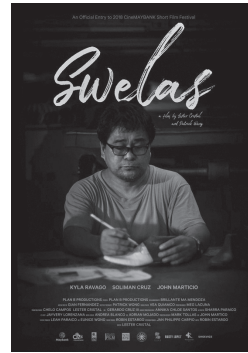
うのですが、フィリピンは大変、靴との関りが深い国だと思っています。なので、靴に関連する映画作品がいくつも公開されています。まず、日本からもオンラインで鑑賞できる映画の一つをご紹介します。「The Shoemaker」という作品で2019年に公開されたショートフィルムです。フィリピンの靴工場を舞台に繰り広げられる年老いた女性靴職人の元に、自分を捨てた初恋の人が30年後の今、訪れてくるという恋愛ドラマです。なんでも、その元恋人が、自分に靴を作ってほしいと訪ねてくるというストーリー。(全編タガログ語ですが、英語の字幕つき)



画像は<https://cinemalaya.org/the-shoemaker/>より

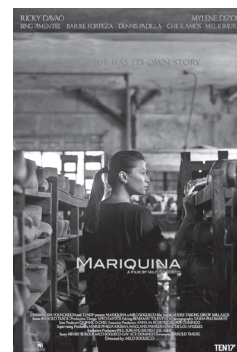
それでは本編を見たいと思っている映画たちですが、「Swelas」は2018年に公開されたショートフィルムです。靴職人が靴事業の失敗と業界の革新の真ただ中で、娘からの靴の新しいデザインの提案を受け入れるために奮闘する物語です。「Swelas」はSuwelasのことで、フィリピンの公用語のタガログ語で“靴底 (Sole of footwear)”の意味です。伝統と革新のはざまで揺れる靴職人の父と娘の物語、どこの国でも共感できるストーリーなのではないかと思います。こちらは予告編を見ることができます。

そして2014年に公開された「Mariquina」。予告編は見る事ができるのですが、それだけでも壁一面に木型が並ぶ靴工場の風景などに引き込まれてしまいます。あらすじは、マリ



画像は<https://filmfreeway.com/SwelasSole>より

キナ市の靴職人の父を持つ女性が、父の死後、父の葬儀の準備をする過程で、完璧な父の生涯の仕事にふさわしい靴を探すことになり、その中で幼い時からの自分と父との関係や、父が一枚の革を自分の足にぴったりと合う靴に作りあげてくれたこと、マリキナの靴産業の繁栄と衰退などの人間ドラマを描いている長編映画です。



画像は<https://cinemalaya.org/mariquina/>より

他にも靴が一つのキーワードになってストーリーが進む、「The Res Shoes」など、気になる映画があるのですが、いつか全部鑑賞したいと願っています。

そしてこれらの紹介した映画たちに共通しているのが、舞台がフィリピンマニラ首都圏の東部に位置するマリキナ市であり、このマリキナ市こそフィリピンの靴産業の中心地なのです。そして、このマリキナ市に「マリキナ靴博物館」があります。世界の履物ミュージアム、次号はこのフィリピンの「マリキナ靴博物館」についてお話ししたいと思います。ぜひ次号もお付き合いください。